

まち

No.25 2025 年 秋号

発行日：令和7年10月23日
発行：日本大学理工学部まちづくり工学科教室
☎03-3259-0531(学科事務室)
発行責任者：後藤 浩(教室主任)
編集担当：牟田聡子、栗本賢一
制作：株式会社 ムーンドッグ

contents

巻頭言	1
特集 まちづくり工学科7期生の「職場での活躍」	2
北欧のパブリックスペースの整備・活用実態について	8
学部3年生・修士1年生へ「就職活動へ向けて」	10
令和7年度前期 “まち” 行事・イベントカレンダー	12
教職員・学生の活躍	14

巻頭言

「寄り道」から始まる未来への道

助教 牟田聡子



本学科に着任して、今年で10年目を迎えます。自身のこれまでの歩みを振り返ると、それは決してまっすぐなものでも、誰もがうらやむようなキャリアパスでもなかったように思います。私は大学院修了後、ベンチャー企業でのインターンシップからキャリアをスタートさせ、結婚・出産を機に7年間ほど専業主婦として家庭に入った時期もありました。一見すると、研究者への道から大きく外れた「寄り道」かもしれません。しかし、その一つひとつが今の私を形作る貴重な経験でした。

大学院時代、私は日本建築学会が主催する子ども向けのワークショップに夢中になっていました。研究そっちのけで熱中し、指導教員に叱られたこともあります。ワークショップは、自身の身体や感覚を通して建築物を捉えるユニークな内容でした。

この経験は、家庭に入った後も生き続け、子どもの小学校で「まちづくり教育」を始めるきっかけとなりました。学校の先生方と協力して、普段の教科を子どもたちの生活に落と

し込み、自分たちのまちの未来を考えるひとつの授業カリキュラムへと、今では校区を超え、「子どもが作るまちづくり」のモデルとして少しずつ広

がっています。

このような地域活動をしていた時期に、きっかけをいただき、本学科に着任することになりました。着任を決めた際は、やはり不安もありました。仕事と家庭の両立、7年というブランク、子どもたちに寂しい思いをさせてしまうのではないかという懸念。しかし、働き始めたことで、専業主婦時代とは異なる視点から自分自身の状況を客観的に見られるようになりました。子どもたちに寂しい思いをさせていた面もあったかもしれません。しかし、これからの時代に合った多様な働き方や家族のあり方も見せられたのでは、と思っています。

学びは決して裏切らない——私はこれまでのキャリアを通してひしひしと感じます。大学院に進学したのは、ただ「もっと学びたかったから」という純粋な思いからです。将来がどうなるか、具体的に描いていたわけではありません。しかし、研究で培った専門知識や、地域活動で得た実践的な経験、そして何よりそこで得られた「ご縁」が今の私を支える「軸」となっています。

もし皆さんが今、目の前の学びが将来にどう繋がるのか分からず不安に感じていても、大丈夫です。たとえそれが回り道や寄り道に見えても、そこで得た知識や経験は、決して無駄になることはありません。むしろ、それらが混ざり合い、誰とも違う「あなただけ」のキャリアを形作り、未来への道を拓く羅針盤となるはずです。大学での学びを楽しみ、興味のおもむくままにさまざまなことに挑戦し続けてください。そうして身につけた力は、必ずあなたの未来を切り拓く力になります。



自分の実寸大の人体スケールと建築物の関係性を学ぶために実寸大の自分モノサシを作って小学校のスケールを測るWS

まちづくり工学科7期生の

職場での活躍

まちづくり工学科が誕生してから12年。

「暮らしの総合デザイン」という理念を胸に、私たちはこの社会に多くの仲間を送り出してきました。卒業生たちは今、それぞれの場所で、まさに社会の「まち」を創る担い手として活躍しています。

この特集ページでは、卒業生の「今」に焦点を当てながら、その原点である「学生時代」まで遡り、彼らがたどってきた軌跡をご紹介します。仕事のやりがいや挑戦、そこで培ったスキルや知識はもちろん、困難をどう乗り越えたのか、どんな学生生活を送ったのか、といったリアルな声を通して、現役のまち科

生が未来へ進むためのヒントを探っていきます。

今回の特集に登場するのは、7期生の皆さん。

彼らが語る等身大の姿は、きっと在学生の皆さんにとって、未来の自分を想像する大きなきっかけとなるでしょう。就職活動を控える3・4年生はもちろん、1・2年生にとっても、大学で学ぶことの意味や、これから歩むべき道のりについて考える貴重な機会になるはずです。

この特集を読んだ皆さんが、彼らの軌跡をたどる中で、自身の可能性を見出し、新たな一歩を踏み出す勇気を得てくれることを願っています。



まち科卒業生に聞きました。

1
どんなお仕事を
していますか？

2
お仕事での目標
はなんですか？

3
学生時代に打ち
込んだことは？

4
後輩に就活への
アドバイスを！

・ 卒論テーマ、修論テーマの研究室名は、在学時のものです。

那須 裕人

株式会社オオバ

卒論テーマ わたらせ溪谷鐵道における地方鉄道活性化方策の実施に関する研究—ネットワークデータを研究対象として—
（西山・天野研究室）

出身高校
土浦日本大学高等学校

好きな「まち」
渋谷・代官山



1

私は「まちづくり」に関連する道路設計・排水設計・造成設計等を行っています。農地などを商業施設や物流施設へ用途を変更する場合、その変更した用途に付随した基盤整備が必要です。そのような将来土地を利用する人にとって魅力あるまちにするための第一歩を担っています。

「まちづくり」はマスタープランや地区計画等の策定でイメージされることが多いと思いますが、計画を現実化する「ものづくり」の「まちづくり」が必要不可欠です。さまざまな法律や基準、デザインの知識を駆使して、安全で住み良いまちをつくりだすことにやりがいを感じています。

2

私は「コンサルタント」として、お客様からいただく「こんなまちにしたい」という要望に対して、より良い提案を行い実現することを目標としています。今はまだ経験が浅いた

め、さまざまな提案をするための引き出しを持ち合わせていません。コンサルタントとしては、いかにたくさんの「事例」を知り、それをお客様に提案できるかが大事だと思います。そのためにも、さまざまな業務に携わり経験を積むことで「事例集め」をして、より良い提案ができるよう日々頑張っています。

3

私は学業を第一優先としつつ、プライベートの時間を利用してさまざまなまちを見に行きました。全国を旅行したり、東京近郊を散歩したりしました。その中でも良かったまちは、卒業旅行で訪れた福岡県の門司港と、研究室で行った長野県の軽井沢です。まちを見に行くことは知見を広げるだけでなく、リフレッシュにもなるのでおすすめです。

また、学業の面では技術士補の資格取得に力を入れました。社会人になると資格試験の勉強をする時間が

限られるため、比較的時間のある大学生のうちに取得しようと思い勉強しました。

4

就職活動が始まったらまず、自分は何がしたいのか、社会人としてのイメージや興味のある分野などを整理することが大切だと思います。それらを決められない場合は、翻って自分が興味のない分野などを抽出して見つめ直すことによって、自然と自分自身が何をやりたいかが絞られてくることもあります。私はこうすることで、就職活動の軸を決めていきました。

また、面接を重ねて思ったのは、就職活動はコミュニケーションだということです。いかに自分のことを伝えられるかが就職活動のカギだと思います。まずは自分のこと、そして熱意を、志望する会社に伝えてみてください。頑張ってください。応援しています。

将来畑から公園になる場所を、支障となる事項がないか現地調査しています



卒業旅行で訪れた門司港



1 どんなお仕事をしていますか？

2 お仕事での目標はなんですか？

3 学生時代に打ち込んだことは？

4 後輩に就活へのアドバイスを！

久保 凜一郎

株式会社都市環境研究所 計画グループ

卒論テーマ 都市部の市街地に立地する遊休倉庫を活用した「エリアリノベーション」に関する研究—東京都墨田区本所地区および台東区蔵前地区を対象として—（岡田・落合研究室）

修論テーマ 東東京エリアにおける遊休倉庫を活用した「エリアリノベーション」の促進方策に関する研究—東京都内5地区の倉庫街を対象として—（岡田・落合研究室）

出身高校
姫路市立
姫路高等学校

好きな「まち」
神戸・姫路



1 どんなお仕事をしていますか？

2 お仕事での目標はなんですか？

3 学生時代に打ち込んだことは？

4 後輩に就活へのアドバイスを！



1

私の仕事は、都市・地域をフィールドに、まちの課題や特徴を読み解き、目指すべき将来像を提案し、それを具現化していくことです。その領域は企画からプランニング、設計デザイン、事業化及びマネジメントまで幅広く、川上から川下までのプロセスすべてに関わることが特徴です。私は今年で3年目ですが、土地利用計画や景観計画など上位計画の策定から、研究施設群の再編や密集市街地の防災まちづくりなど地区単位の計画、文化財の保存・活用、ウォーカブルの推進に向けた社会実験など個別の設計デザインまで、幅広い分野の仕事に携わっています。

2

前述の通り、さまざまなテーマを扱うため、幅広い知識と技術が必要とされます。社会人となった今も勉

強の日々で、最新の情報収集のためにアンテナを張り、気になったら実際に訪れてみるなど、自発的に知識を求め、自分の手で稼ぐことを大事にしています。

まちづくりの潮流は、これまで

の成長を前提としたものではなく、「国から地域」「行政・専門家から住民」「直すから支える」へと変化しています。今後は、幅広い分野に携わるメリットを活かし、地域を総合的に捉え、明確な課題抽出と必要な技術を提供できる「まち医者」のような存在になることが目標です。

3

大学院時代の修士研究が特に印象に残っています。舟運で栄えた蔵前や清澄白河など東東京の倉庫街を対象に、遊休倉庫を活用したエリアリノベーション展開の要因とその促進方策について論考しました。指導教員であった岡田先生と落合先生には、豊富な知識や経験の下、研究の立ち上げから熱意を持って指導いただき、論理の体系化や表現方法、質疑対応など

の技術面はもちろんのこと、導いた結果の社会的意義の重要性も学びました。研究で学んだ「自分が社会に対して何ができるのか」という視点は、社会にでた今でも大切にしています。

4

まち科での学びを通して、地元のまちづくりに携わりたい、自分の手で計画・デザインしたい、現場管理として完成を見届けたいなど、自分の興味が固まっている人もいれば、迷っているという人も多いと思います(私もそうでした)。私は大学院に進学し、後輩指導や研究室運営などのマネジメント、学会発表・プロジェクトなど対外的な活動の機会を通して視野が広がり、自分のやりたいことや強みが明確になりました。

まずはインターンシップやアルバイトなど、自分の興味に飛び込んでみるのが大事です。その上で、進学してスキルアップを目指しながら進路をじっくり考えるのもひとつの選択肢だと思います。

漁港周辺のまちづくり構想策定に向けたワークショップ



品田 康太

株式会社 KITABA

卒論テーマ 米国ハワイ州における日系人に関わる観光資源に関する研究(歴史まちづくり研究室)

修論テーマ 北海道におけるインフラツーリズムに関わる主体間連携に関する研究(歴史まちづくり研究室)

出身高校
北海道音更高等学校

好きな「まち」
紋別市



1

私が所属している株式会社 KITABA は、自治体の総合計画や個別計画の策定・支援、町内会などのコミュニティやエリアマネジメント組織の運営支援を主な業務としています。私は、そのいずれの分野にも携わっています。計画策定業務では、総合計画をはじめ、景観計画、都市計画マスタープラン、立地適正化計画、歴史的風致維持向上計画など、さまざまな計画の策定・支援に関わってきました。運営支援では、地域の関係者と直接対話しながら、課題や将来像を共有し、イベントやアンケートの実施を通じて、地域活動の促進や継続的な組織運営の支援を行っています。

2

現在、私は社会人3年目を迎え、業務内容やその進め方にも徐々に慣れてきました。今後は、将来的に業務の責任者を担うことを見据え、自身の役割や対応できる領域を広げていくことを目標としています。具体的には、自身の業務を効率化するだけでなく、チーム内での作業分担や進捗管理にも積極的にに関わり、業務全体を俯瞰しながら進められるようになりたいと考えています。また、これまであまり関わる機会のなかった資金管理にも挑戦するとともに、成果物の品

質管理にも責任を持てるよう、必要な知識や経験を積み重ねていきたいと考えています。

3

学生時代は、研究及び研究室での活動に最も多くの時間を費やしていました。私は、研究は得意な分野ではなく、何度も失敗を重ねながら取り組んでいたことを記憶しています。そうした中で、後輩の研究指導では、限られた時間の中でどのようにアドバイスすれば良いのか悩むことも多くありました。こうした経験を通じて、情報収集や打ち合わせでの発言の質を高める姿勢などが身についたと感じています。

また、就職活動でのグループワークでは、研究を効率的に進めようと工夫したことや、相手に伝わる発言を意識していたことが活かした場面もあり、自分にとって貴重な学びの機会だったと振り返っています。

4

たくさん考え、悩み、そして挑戦してほしいと思います。就職後には、就職活動中には見えなかった会社や業界の一面が次第に見えてきます。それが「良いこと」であれ「想定外のこと」であれ、自分自身が考え、悩み、挑戦した結果であれば、反省はあっても後悔は少ないと思うからです。そのためにも、情報収集の際には、企業の HP に加えて、自治体の HP に掲載されている入札結果などを確認するのもおすすめです。そこから、自分の関心分野に強みを持つ企業や、地域に根ざしている企業、自分の好きな場所・まちに関わっている企業を見つける手がかりもあるからです。

町内会との連携も視野に入れた若者のコミュニティづくりに関わるイベント



同級生と院生室で(当時はコロナ禍でマスクが必須)



1 どんなお仕事をしていますか？

2 お仕事での目標はなんですか？

3 学生時代に打ち込んだことは？

4 後輩に就活へのアドバイスを！

佐川 凜

株式会社長谷工コーポレーション 第一施工統括部

卒論テーマ 福島県におけるホープツーリズムの運用実態に関する研究(押田研究室)

出身高校
宮城県
仙台向山高等学校

好きな「まち」
会津若松市



職人さんの体調確認も監督の仕事！
楽しく会話しています

1 どんなお仕事をしていますか？

2 お仕事での目標はなんですか？

3 学生時代に打ち込んだことは？

4 後輩に就活へのアドバイスを！

1

私の仕事は建築施工管理で、建設現場の安全管理はもちろん、工事がスムーズに進むように段取りを行うとともに出来上がっていくものの品質管理を行います。人とのコミュニケーションを取ることで成り立つ仕事なので大変な面もありますが、やりがいと達成感がある非常に素敵な仕事です。

2

「笑顔でいること」、これは私が現場に配属されるときからずっと心にとどめていることです。どんな仕事でも、働く中で大変なことが無いなんてことはありません。しかし、笑顔と頑張る姿勢を忘れなければ、周りの皆はそれを見てくれます。そのため、たくさんの興味を持ち、いつでも楽しむ気持ちを欠かさずに程よく頑張りたいと思います。そし



友達とピクニック！
おすすめです

て現場の雰囲気良くなるような存在になることが私の目標です。

3

学生時代、私はさまざまなことへの挑戦に打ち込みました。例えば、私はロックバンドのライブへ行くことが好きなので、ドラムに挑戦しました。すると私はドラムを叩いて披露するよりも、観客としてライブを見る

方が好きなのことが分かりました。また、さまざまな場所へ旅行に行ったり、映画館に一人で通ったりしたこともありました。

このようにたくさんのことに挑戦することは、自分は何が好きなのか知ることにつながります。それがこれからの人生での自分の心のリフレッシュの場になるのではないかと感じています。

4

就職活動に際して、私はどの仕事に就いても結局は自分がその時々で楽しいと思えるポイントを見つけることが一番大事だと思っていました。そして実際に社会人になり、本当にその通りだと感じています。

その中で、どの会社を受けるか決め手となるのは、さまざまな会社・職種のインターンシップや説明会に参加することです。そし

て、それぞれの業務内容の中で大変なことがあっても自分の個性が輝ける具体的な想像をすることが、社会人になった後のモチベーションに繋がり、重要だと私は思います。就職活動中は緊張でおなか痛くなることもあるかと思いますが、笑顔は決して忘れずに乗り越えてください。

また私は現場監督に憧れる反面、非常に大変でつらいというイメージを持っていました。しかし今となっては、事務職も現場職もそれぞれ別のベクトルで大変で、やってみないと分からないなという感覚があります。年数を重ねるとなおさら、大変なことは無限大にあると思いますが、私は多くの人に出会い、その方々のために頑張りたいと、今は思っています。自分でも驚くほどです。そんな人もいるのだと、就職活動に努める皆さんにこの文章を読んでほしいと思います。

木村 誠也

独立行政法人都市再生機構 住宅経営部

卒論テーマ UR 団地のオープンスペース改修に対する居住者評価及び利用実態に関する研究—洋光台の団地再生に着目して—（山崎研究室）

出身高校
横浜市立
戸塚高等学校

好きな「まち」
みなとみらい



無印良品店員として参加した「MUJI × UR」団地のイベント

1

UR 都市機構では「賃貸住宅」「都市再生」「災害復興」という3つの部門を2～3年でジョブローテーションしていきます。私は現在3年目ですが、賃貸住宅部門で「団地修繕に係る予算執行管理」「機構業務のシステム化」の2つの業務を経験しています。URの働き方は多岐にわたり、技術系職員でも設計・積算や工事監理系で働く人もいれば、私のように団地の維持管理や社内システム構築系で働く人もいて、さまざまです。異なる部門・領域で幅広い仕事を経験することで多角的な視点で業務にあたることができ、若いうちから最前線で活躍できるため、日々やりがいを感じながら働いています。

2

私は将来、UR 賃貸部門には欠かせない人材になりたいです。UR 賃貸は今後、建物の老朽化や人口減少、ライフスタイルの変化などたく

さんの課題・変化に対応していく必要があります。そこで必要となるのが「数十年後の社会変化にも対応できる団地づくり」だと考えます。現在は団地維持管理の仕事をしていますが、仕事を行う中で「目先の対処だけになっていないか」「居住者はどう思うか」という視点は常に持ちながら業務にあたるように意識しています。今後は維持管理で得た知見を活かして設計や団地建て替えも経験し、計画から維持管理までこなせるゼネラリストになりたいです。

3

学生時代に経験できて良かったと感じているのは、たくさんのアルバイトを経験できたことです。私は飲食・接客・塾講師・引っ越しなど、さまざまな業種のアルバイトを経験したことで視野を広げることができました。とくに接客業のアルバイトでは、対人力を養うことができました。アルバイトを通して人として成長できただけでなく、

社会人として働いていく中でアルバイトでの経験が実際に役に立っていると感じる場面が多々あります（とくに対人力は大切だと実感しています）。

4

今の私にとって、アルバイトでの経験はかけがえのない経験です。

まずは幅広く業界を見て、興味のある業界を見つけてみてください。興味がないと思っている分野の企業説明やインターンシップに参加することで、気づけることもたくさんあると思います。また、「自分の強み」は何かということを意識して就活に臨んでみてください。机に向かって自己分析を始めても進まないこともあるでしょうから、インターンシップなどを利用すると他の参加者の考えや表現方法を学ぶことができますし、自分の「強み／足りないもの」は何かということを同時に分析することもできます。悩むこともあると思いますが、時には友人や先生方を頼り、納得いく就職活動ができるよう頑張ってください！

1 どんなお仕事をしていますか？

2 お仕事での目標はなんですか？

3 学生時代に打ち込んだことは？

4 後輩に就活へのアドバイスを！

新ブランドアイデンティティとともに



日本大学海外派遣研究（短期B）の助成を受けて、2024年8月4日から28日まで、北欧の中心市街地におけるパブリックスペースの整備・活用実態について調査を実施しました。本調査では、歩道や街路等の公共空間に加えて、街路沿いの店舗テラス、地域の居場所として公共的に活用されている図書館（屋内公共施設）も含めてパブリックスペースとして捉えて視察しました。

訪問地は、北欧の主要都市であるヘルシンキ（フィンランド）、ストックホルム（スウェーデン）、コペンハーゲン（デンマーク）等でした。本稿ではヘルシンキとコペンハーゲンの調査結果を中心に、屋外公共空間である「通り・広場」と屋内公共空間である「図書館」に分けて報告します。

■ 通り・広場に関する調査結果

最初の視察先であるヘルシンキでは、行政ヒアリング調査により、都市空間の利用制限や利用緩和条件等の規定を調査しました。市内中心市街地のすべてではなくエリア指定されたオープンテラスの設置可能範囲や、設置寸法・構造条件を

把握しました（図1）。図面例に車いすが描かれていることからわかるように、車いす利用者も考慮した計画となっています。しかも特別な配慮としてではなく自然に考えられているところが、福祉先進国の北欧らしさが垣間見えます。

コペンハーゲンにおいても、ストロイエ及び周辺広場を中心に、沿道店舗に設置できる屋外テラス（商業目的）や滞在可能場所（商業目的以外）の範囲・設置ルール等を把握しました（図2）。

ストロイエは、コペンハーゲンにある全長約1.1kmのメインストリートで、1960年代前半に世界で初めて歩行者天国化されました。『建物のあいだのアクティビティ』『人間の街：公共空間のデザイン』の著者としても有名なヤン・ゲール（都市デザイナー・建築家）を中心に、10年以上にわたりパブリックライフに関する包括的な調査研究が実施された場所で、自動車から人間のために転換されたパブリックスペースの先進事例です。

現地調査では、沿道店舗の有無や飲食店・物販店等の店舗種類、テラスやベンチの設置状況や路面舗装等を調査しまし

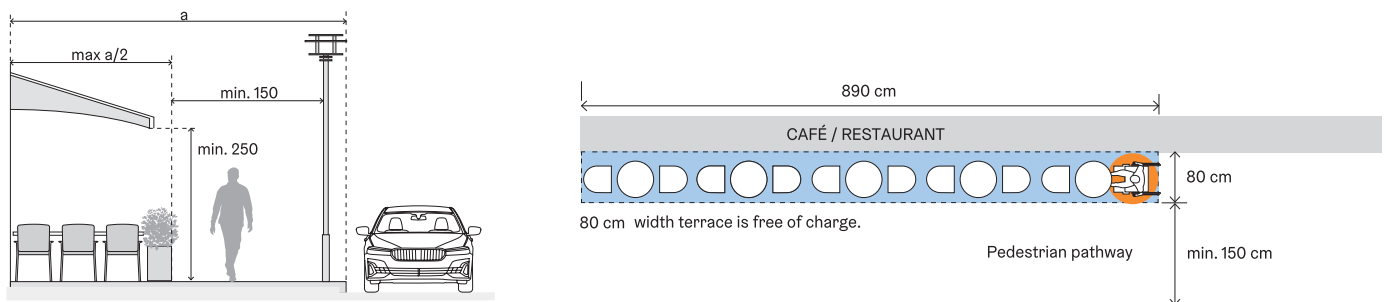


図1 オープンテラス設置条件と配置例（「Terrace instructions」City of Helsinki Urban Environment Division より抜粋）

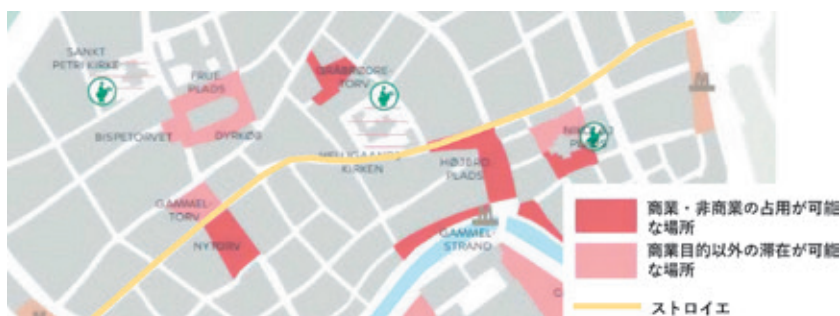


図2 ストロイエ周辺の占用・滞在の可能エリア（コペンハーゲン市資料「Udeservering（屋外席）」2023.12を元に筆者加筆）



写真1 実測の様子（ストロイエ）



写真2 ヘルシンキ中央駅周辺のテラス席



写真3 エスプラナーティ周辺（ヘルシンキ）のテラスの活用状況



写真4 アマートゥ広場周辺のストロイエの活用状況

■ まとめ・今後に向けて

各々の都市に滞在する期間は短かったものの、各都市の道路・広場や図書館の空間整備や活用状況を視察し、北欧のパブリックスペースの豊かさを体感しました。さらに、ヘルシンキもコペンハーゲンも現在のパブリックスペースが完成形ではなく、都市空間の整備や活用方針も変更・発展していきます。ヘルシンキでは駅前周辺の再整備案(図4)をはじめ将来的な空間整備方針を、コペンハーゲンでは次年度よりオープンテラスの設置条件等が変更されることが把握できました。そのため、北欧のパブリックスペース整備・活用については継続的に情報収集していく予定です。

■ さいごに

この度の海外派遣研究は、現地の行政担当者やコーディネーター、学科の先生方、学部事務職員のご協力により実施す

ることができました。心より感謝申し上げます。ここで得た貴重な経験を糧にして、今後の調査研究や教育活動に活かしていく所存です。



図4 ヘルシンキ中央駅前広場の現状(上、筆者撮影)と将来整備イメージ(下、画像出典:都市中心部の交通システム計画 City Of Helsinki Urban Environment, 2024.7)

学部3年生・修士1年生へ「就職活動へ向けて」

まちづくり工学科就職指導委員 仲村 成貴

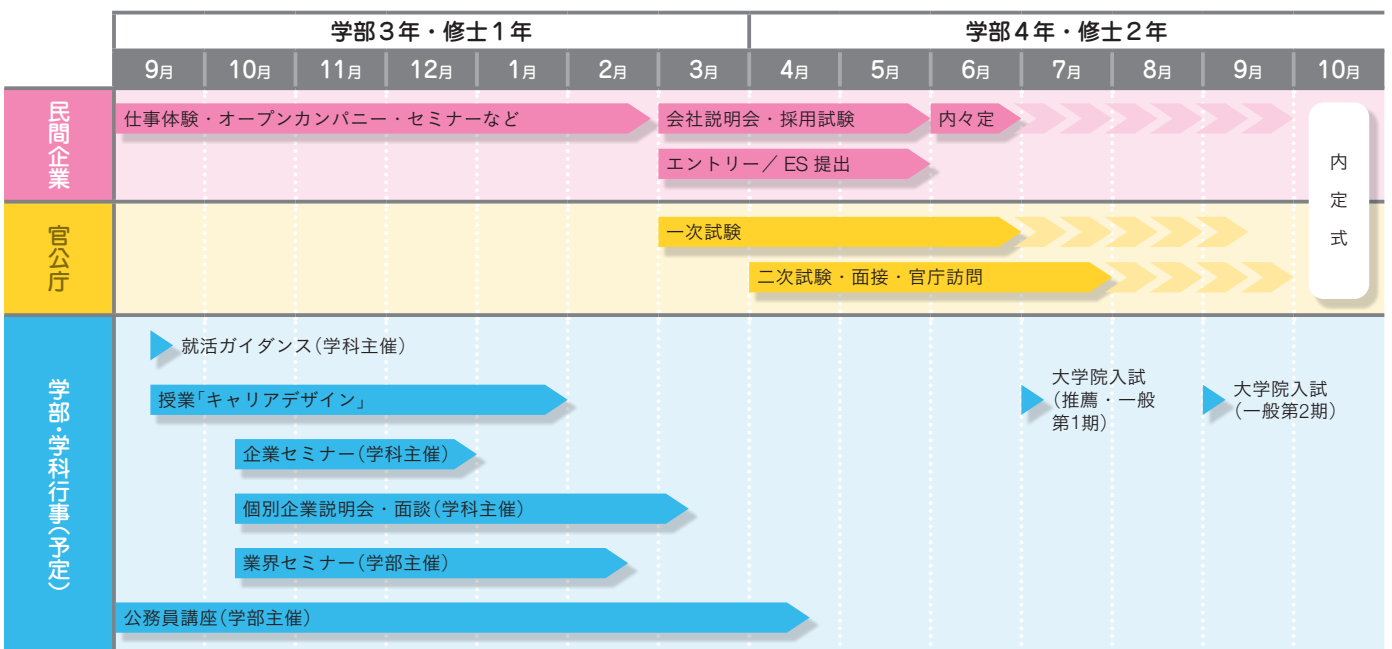
就職活動はみなさんの今後を左右する大切な機会です。この機に将来について真剣に考え、悩み、自分の道を切り拓いてください。

1. まずはスケジュールを確認しよう

みなさんが対象である2027年(2026年度)修了・卒業者の就活スケジュールについては、本年度までのスケジュールを踏襲する方針が政府より示されています。しかし、実際には多くの企業がこれよりも早い日程で実質的な選考を進めることが想定されます。これまで以上に多くの業界や企業・団体

でスケジュールの早期化が進むとともに、活動の長期化傾向が強まりそうです。夏季インターンシップに参加した後に、早期選考(インターンシップ選考など)を勧められた人もいでしょう。決して焦る必要はありませんが、さまざまな業界や業種、職種を知った上で、自分の志望を固めてください。そのことがまちづくり工学を学ぶみなさんの武器となります。

公務員試験については国家公務員採用情報NAVI(<http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.htm>)や公務員試験情報こむいん(<http://comin.tank.jp/>)、各自治体のホームページ等を頻繁



キャリア支援・就職活動の概略スケジュール

に確認して情報入手しましょう。公務員試験でも試験形態の多様化や試験日の早期化が進んでいます。筆記試験に SPI 試験を導入する自治体が増えるなど、志望先に応じた対策の必要性が高まっていますので注意してください。

本学大学院入試は、例年7月初旬（推薦・一般第1期）、9月上旬（一般第2期）、3月（一般第3期）に行われます。大学院進学の特長のひとつは、研究活動を通じて人間力と専門的な能力を高め、自分の可能性を広げる機会が得られることにあります。ぜひ大学院への進学を検討しましょう。

2. 始動しよう

まちづくり工学科ではさまざまなキャリア支援プログラムを展開してきました。その集大成として、後期火曜5時限目に必修科目「まちづくり工学キャリアデザイン」を開講します。今後のキャリアを形成していくための情報をみなさんに提供し、具体的な進路を考え、対策を進めてもらいます。しっかり取り組んでいきましょう。

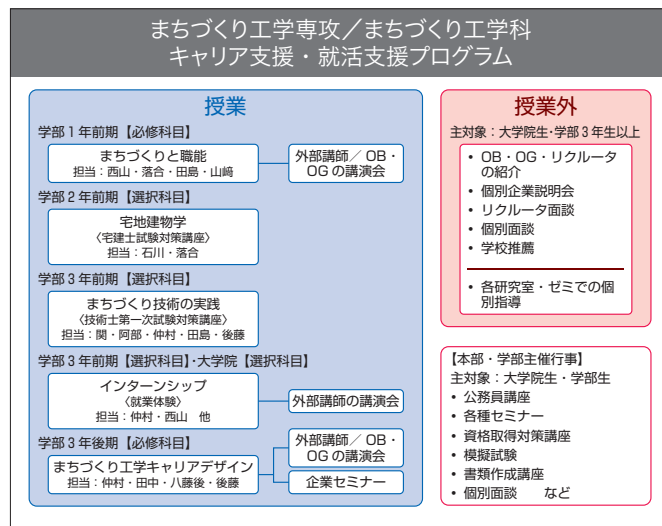
3. 情報収集しよう！

・まちづくり工学科から発信する情報を活用しよう！

まちづくり工学科独自の就職活動支援サイトは、夏季インターンシップでも活用してもらいました。今後も各種情報（仕事体験・オープンカンパニー・セミナー・説明会などの企業や団体によるイベント開催情報、OB/OG・リクルータ提供情報、求人情報（学校推薦・自由応募）の入手や、まちづくり工学科の先輩たちが残してくれた貴重な就職体験記・公務員試験合格体験記が閲覧できます。

・まち科や大学主催の行事を活用しよう！

「まちづくり工学キャリアデザイン」の中で「就職活動ガイダンス」と「企業セミナー」、授業外に「企業別説明会・面談」を開催します。とくに「企業セミナー」は、まちづくり工学専攻・まちづくり工学科の学生のために開催する学科主催の対面セミナーです。各社に勤務する本学 OB/OG・リ



クルータや人事担当の方が、業界・業種・職種などを紹介、質問にも個別に対応していただきます。学外のセミナーと異なり、少人数形式でじっくり情報収集ができます。パンフレット、Web、SNS では入手できない、みなさんが本当に必要とする情報を得るチャンスです。また、本部や学部が主催する「公務員講座」「業界セミナー」なども多数開催予定です。大学で開催する行事では、参加企業・団体等がみなさんを過度に勧誘することは決してありません。安心して積極的に参加してください。詳細は、まち科就活支援サイト、Classroom、まち科掲示板、就職全般／公務員メーリングリストで案内します。

4. 注意

就活に気をとられ過ぎて授業をサボってばかりでは本末転倒です。大学は就職予備校ではありません。みなさんが最優先すべきことは大学での勉強であることを決して忘れずに。

われわれ教員はできる限りみなさんをサポートしていきます。困ったことや悩みごとなど相談も受けますので遠慮なくどうぞ。

まちづくり工学科就職活動支援サイト

NU アカウントでログイン後に、以下の URL もしくは QR コードでまち科就活サイトへアクセスしよう！

まちづくり工学科の教員及び学生のみ閲覧可能

<https://sites.google.com/nihon-u.ac.jp/machicarrier/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>



令和7年度前期 “まち” 行事・イベントカレンダー

3/25 火 卒業式（学位伝達式） （駿河台キャンパス 1号館151教室 午前11時開始）



牟田・八藤後研究室



押田研究室



岡田・田島・栗本研究室



山崎研究室



西山研究室



田中研究室



仲村研究室



落合研究室

4/2 水 - 7 月 前期ガイダンス

〈教室主任〉 後藤 浩

〈担任〉 1年生 依田 光正、落合 正行、植田 瑞昌、
栗本 賢一

2年生 西山 孝樹、田島 洋輔

3年生 阿部 貴弘、牟田 聡子

4年生 田中 賢、押田 佳子、山崎 晋

大学院 仲村 成貴

〈就職〉 岡田 智秀、仲村 成貴、後藤 浩、田中 賢、
（八藤後 猛）

〈広報〉 落合 正行、栗本 賢一、田島 洋輔



1年生集合写真

4/7 月 新入生歓迎式（船橋キャンパス 理工スポーツホール）

4/8 火 入学式（日本武道館）

4/9 水 前期授業開始



都市・地域デザイン演習（3年生）

6/15 日 オープンキャンパス駿河台（駿河台キ ャンパス タワー・スコラ S303教室）

学部全体来場者数：2,419名

まちづくり工学科来場者数：901名



6/28(土)

後援会父母面談会（駿河台キャンパス タワー・スコラ S502・S503・S504・S505教室）

7/12(土)

令和7年度第1回修士論文審査会（駿河台キャンパス タワー・スコラ S302教室）

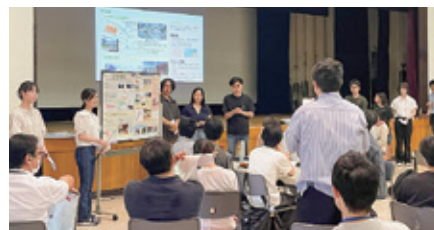
氏名	題目
(博士前期課程2年生)	
松島萌華	長期存続する公民館の成立要件に関する研究 —まちづくりに貢献する「優良公民館」を通して—
藤澤綾香	伝統芸能の維持継承が地区コミュニティに及ぼす効果に関する研究 —長野県長野市の獅子舞を対象として—
常松美咲	地方都市における海釣り施設を活用したまちづくりに関する研究 —長期運営される海釣り施設の整備状況と運用形態に着目して—
鈴木真悠	発災直後における地域建設業者の応急復旧対応に関する研究 —令和6年能登半島地震を対象として—
香取 潤	都市開発諸制度における環境配慮の取り組み実態・決定プロセスに関する研究 —東京都の事例を対象にして—
落合はる菜	まちなか観光地における観光施設計画に関する研究 —歴史的資源を活用した観光まちづくり事例を対象として—
大塚晴希	芸術鑑賞や自然鑑賞の多様性に関する研究
石塚菜々子	鎌倉市まちづくり条例に基づく自主まちづくり計画の運営に関する研究



7/26(土)

『まちづくりワークショップⅡ』
成果発表会

3年生向けの実践科目「まちづくりワークショップⅡ」では、本年度、神奈川県相模原市淵野辺地区を対象に次世代型まちづくりに取り組みました。学生は現地踏査に加え、市役所職員へのヒアリングや住民とのワークショップを重ね、合意形成のプロセスを実地で学修しました。7月26日（土）には地域住民・市職員同席の最終発表会を実施し、地域の特性を活かした活性化策など、具体的な提案を実践的に展開しました。



8/2(土) - 3(日)

オープンキャンパス船橋
(船橋キャンパス)

学部全体来場者数（2日間合計）：7,442名（受付組数：4,752組）
まちづくり工学科来場者数：1日目 725名 2日目1,008名



8/26(土)

後援会地方父母面談会

新潟会場（岡田智秀） 1組
宮城会場（田中 賢） 1組

9/30(火)

9月卒業学位伝達式

まちづくり工学科卒業生：1名

後援会役員（父母役員）※敬称略

1年 西脇 公治 2年 望月 亮作 3年 澁川 剛史 4年 松永 勝也 大学院 大淵 憲之

学会・協会等の受賞、テレビ放映や新聞・雑誌に掲載された記事、書籍の出版など、本学科の教職員・学生の活躍を紹介します。

[受賞]

■ 准教授 西山孝樹

令和7年度土木学会土木史研究発表会「優秀講演賞（近世以前研究部門）」

対象：『会津藩家世実紀』にみる社会基盤整備に関する一考察
一初代藩主保科正之を対象として—

受賞年月日：2025年6月22日

■ 助教 植田瑞昌

キッズデザイン協議会「第19回キッズデザイン賞・奨励賞」子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門

対象：障がいのあるお子さんのころと体に合った排泄スタイル
～住まいのくふう～

受賞年月日：2025年9月17日

■ 4年（受賞当時）廣木夏葵
（指導教員 仲村成貴）

第52回土木学会関東支部技術研究発表会「優秀発表者賞」

対象：新旧地形図と常時微動観測に基づく造成地の土地改変状況の推定

受賞年月日：2025年3月11日



[講演等]

■ 教授 阿部貴弘

サイエンスアカデミー出張講義「身近な“まちの歴史”の再発見」

主催：東京都立江戸川高校

開催年月日：2025年7月14日

令和7年度 道路メンテナンス講習会（第2回）「インフラツーリズムのこれまでとこれから」

主催：東京都道路整備保全公社

開催年月日：2025年7月31日

令和7年度日本大学東部工科大学技術研修会「インフラの文化的価値」

主催：日本大学東部工科大学

開催年月日：2025年8月23日

■ 教授 岡田智秀

地方都市の地域資源を活かした持続的なまちづくり

主催：鹿沼市

開催年月日：2025年3月4日

芝浦エリアを中心としたウォーターフロントまちづくり戦略

主催：野村不動産

開催年月日：2025年3月19日

八千代台フォトコンテスト5周年記念シンポジウム「八千代台まちづくりプロジェクトの歩みとフォトコン応募作品の特徴分析」

主催：八千代台まちづくり合同会社

開催年月日：2025年6月1日

土木技術職員研修会「景観配慮の基礎知識：景観デザインの理念／水辺空間活用の実践」

主催：静岡県

開催年月日：2025年8月26日

焼津の景観まちづくりの現状と展望

主催：焼津市

開催年月日：2025年8月29日

土木学会長プロジェクト2024「仕事の風景探訪事例」を通じてみた土木デザインの意義（オンライン）

主催：土木学会

開催年月日：2025年9月8日

港・ウォーターフロントの持続可能なまちづくり戦略

主催：日本港湾協会

開催年月日：2025年9月8日

焼津内港エリアを核とした“みなとウォーク”形成方策

主催：焼津市

開催年月日：2025年9月28日

■ 准教授 落合正行

2025年度日本建築学会大会研究協議会「地域課題と対話し、暮らしと関係を再創造するコミュニティ拠点の最前線国際比較」（主題解説および討論）

主催：日本建築学会地域施設計画小委員会

開催年月日：2025年9月11日

『有名建築事典』刊行記念トークイベント「有名建築ここだけの話」

主催：学芸出版社

（協力：ARCHIES 編集部）

開催年月日：2025年9月27日

■ 准教授 押田佳子

日本造園学会100周年記念全国大会ミニフォーラム「都市公園などの「公的な場」と「祭祀の場」との統合的マネジメントのあり方を探る」（話題提供）

主催：日本造園学会

開催年月日：2025年5月18日

随時情報を牟田・栗本へメールでお寄せください。なお、本年度の学会等での発表は、次号（3月発行予定）にまとめて掲載します。

■ 助教 栗本賢一

2025年度日本建築学会大会パネルディスカッション「産業と空間の関係を再考する―産業テリトリーオの概念から」（主題解説および討論）
主 催：日本建築学会都市と産業に関する研究小委員会
開催年月日：2025年9月12日

■ 助教 田島洋輔

サイエンスアカデミー出張講義「再生可能エネルギーを中心とした持続可能なまちづくり」
主 催：昭和鉄道高等学校
開催年月日：2025年6月18日

羽生利根川水辺空間検討ワークショップ（コーディネーター）
主 催：利根川の魅力を育む会
（共催：埼玉県羽生市、協力：国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所）
開催年月日：2025年5月25日、6月22日、7月19日、8月4日

〔書籍〕

■ 准教授 落合正行

書籍名：『有名建築事典 イラスト & 解説 500』（共著）（学芸出版社）
発行年月日：2025年6月10日

〔雑誌等〕

■ 准教授 落合正行

記事名：創造系不動産：事業系の不動産コンサルティングに特化したチームとは「平町プロジェクト」
掲 載 誌：『KJ』2025年4月号
発行年月日：2025年3月15日

記事名：不動産：シン町家11 上池台の住宅〈いけのうえのスタンド〉
掲 載 誌：『シン町家百科』（盆地 Edition）
発行年月日：2025年9月1日

〔新聞〕

■ 教授 阿部貴弘

記事名：インフラツアー実現難しく
掲 載 誌：北海道建設新聞
掲載年月日：2025年6月6日

〔テレビ出演〕

■ 教授 岡田智秀

J:com「TODAのイイtoco 3月号」（北戸田駅周辺まちなかウォークアブル推進事業）
放 映 日：2025年3月1日～15日

退職教員のご挨拶

最長不倒で苦闘の24年間

本年2025年3月に日本大学理工学部特任教授を退職し、友人のコンサルタントに週数日だけ技術顧問という立場で行っているものの、自由人として暮らしている。肩書は、一般社団法人パブリックデザインコンソーシアム理事・会長というものを使っている。

今回の日本大学理工学部には2001年から2021年まで教授として、2021年から2025年まで再雇用の特任教授として奉職させていただいた。わざわざ今回と記したのは、実は日本大学理工学部勤務するのは2回目だからである。この稿を眺めている読者には伝えておきたいが、同じ職場に勤務するのも良いが変わっていくのもなかなか面白いという事である。天野は大学院終了後、1980年から1987年まで建設省（現国土交通省）、1987年から1992年まで東京工業大学工学部社会工学科、1992年から1996年までが1回目の日本大学理工学部、1996年から2001年が東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学専攻、そして今回の日本大学理工学部という事である。よく転職したものだと思う。今回は、2001年から2013年まで社会交通工学科（現 交通システム工学科）、2013年から2025年までまちづくり工学科と途中で学科が変わったものの、24年間も奉職させていただいたので表題に「最長不倒」と書かさせていただいた。

日本大学理工学部に戻ってきた理由を端的に言えば、「まちづくり工学科」をつくりたくて来たという良いと思う。そのために、はっきり言えば発言力を手にするために理工学部内でもさまざまな仕事をさせていただいた。天野の履歴ばかりになって申し訳ないが、理工学部内での仕事の主なものをあげてみよう。2001年から2006年入試実行委員会（1年間委員、2年間副委員長、最後の2年

天野光一 特任教授



間委員長）、2006年から2007年入試改革特別委員会委員長、2006年から2008年社会交通工学科主任、2008年から2011年就職担当、2011年から2014年学生担当、2014年から2017年就職担当だった。知る人ぞ知る「若きエンジニア」も歌えることもあり、日本大学理工学部卒業ではないが、卒業生といっても良いと言われるくらいには認められるようになったと自負している。2009年頃か天野などが主張していた「まちづくり」を含む新しい学科を考える学科再編検討委員会が編成（横内名誉教授が当時の委員）され、その結果、まちづくり学科（現 まちづくり工学科）、情報工学科（現 応用情報工学科）を新しい学科とした再編案がまとまった。なぜかその委員会には入っていなかった天野が実行委員会委員長を仰せ付けられ、日本大学本部や文部科学省の説明にあたった。まあいろいろあったが何とか認められた。このような経緯もあって、あえて「苦闘」とも書かせていただいた。天野の努力というよりは、結局「まちづくり」という分野、専門が認められたといっただけだろう。

さて最後に、「まちづくり」を学んでいる皆さんに一言。「まちづくり」に関する知識や技術は授業や勉強を通して手に入れられるし、実際に強力な武器になると思う。しかし、年齢を重ねたためか、最近良いまち美しいまちをつくりたいという「愛」が最も大事ではないかと考えている。ぜひ愛をもってまちづくりにあたってほしい。もう一点は、論語に「知好楽」という言葉があり、解説はしないが、ぜひ楽しんでやってほしい。愛を持って楽しんで「まちづくり」をしていただきたいことをお願いして、本稿を終わりたい。

退職教員のご挨拶

“次のまちづくりの先導役”となるあなた達へ

三十数年、公務員として「都市計画」「都市開発」「地域・まちづくり」等に携わり、そのあと“まちづくり工学科”の創設を機に、この3月まで大学に身を寄せてきた。公務員を退き、東日本大震災被災地をはじめ、各地でまちづくりの最前線を経験してきた。この10年余りを改めて振り返るなら、“まちづくり”は目先の新しさ、巧妙なロジック・言葉（概念）で体裁を保ってきたが、明らかに壁にぶつかり新たな一歩を求められだしている。その先導役を欲している。

学科創設当時、ある思いがあった。長年の公務員生活の中で出逢った、所属も時期も異なる3人の公務員のことである。確かに、都市計画やまちづくりに対する知識が豊富で話のうまい人は、何人もいた。けれど3人は明らかに異なる。まちづくりに対し確固たる信念をもち、自分の思いを押し付けたりやたらと自分の考えを実現しようとしたりするのではなく、地域の人たちの思いに共感し、いっしょになって形にしていこう。そして奇しくも、その人達は日本大学理工学部の出身者であったのだ。そのような人材を“まちづくり工学科”から世に送り出したい。学科の中で「公務員講座」を開いたり、公務員という職業選択の意味を伝えてきたりした。公務員にな

高村義晴 特任教授



るということは、仕事の選択ではない。地域の人たちを幸せにすることを自分の喜びとする「生き方の選択」である。広くまちづくりに携わるということはそういうことである。

『星の王子さま』（サン＝テグジュペリ 著）の中で語られる有名な一節に、次のような言葉がある。「ほんとうにたいせつなことは、目に見えない。心で見なくちゃ、ものごとはよく見えない」と。王子さまがキツネとの対話の中で学んだ「関係性の深さや、絆・愛、信頼」といった目に見えない価値の大切さを象徴する。

まちづくりは計画書の中にあるのではなく、地域の人々の暮らしの中にある。地域は、数字で測るものでも小手先の技法を弄すものでもない。人と人、自然や文化等との関係の中で育まれるものです。あなたたちがこれから向き合うまちや地域には、目には見えませんが、確実に地域としての「生き方」があります。それを感じ、寄り添い共感し、共に生きようとするところからまちづくりは始まります。ほんとうに大事なことは目に見えず感じることでしかわからないのです。

新任教員のご挨拶

このたび、母校において教育・研究に携わる機会を得られたことを、うれしく思っております。私は、福祉住環境・福祉まちづくりなど、人の暮らしを支える分野を専門とし、教育・研究を行っています。また、障がいの有無にかかわらず、共に育ち・学び・遊べる社会を目指して活動をしています。建築士として高齢者や障害者のための住環境整備の相談員をしていた経験を活かし、現在はさまざまな自治体でユニバーサルデザインアドバイザーも務めています。

植田瑞昌 助教



「福祉」というと「障害者のため」というイメージが強いようですが、本来は、すべてのひとが心も体も健康で幸せに生活できるようにする取り組みなのです。その人らしい幸せな暮らしや癒される空間を考え、誰もが住みやすいまちの実現に向けて、工学的視点から皆さんと共に探求していきたいと思っています。

新任事務員のご挨拶



事務 小川友佳

千葉出身、練馬在住の大学生と高校生の母です。まちづくり工学科での充実した生活のお役に立てればうれしいです。どうぞよろしくお願いいたします。



事務 加藤智子

中世軍記物に親しみ、商店街散策も楽しんでます。どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

本号は、7期生の卒業生の職場での活躍を特集しました。教員2年目の私は、「インターンシップ」の授業や研究室での就職指導を通じて、教員と学生が一体となって挑む就活の力強さを実感しました。学科創設以来の7期分の蓄積は着実に社会へ届き、評価へと結びついていると感じます。まちづくりの本懐は「ひとづくり」にあります。学生を社会に送り出し、卒業後も学び続ける背中を支えることが、私たち教員の最大の役割だと改めて感じています。在学生の皆さんは、授業・演習等で培った経験を自信に、次の一歩を。卒業生の皆さんは、また気軽に近況を聞かせてください。本誌が学びと実践をつなぐ架け橋であり続けられれば幸いです。

（栗本）